

5章 地域公共交通の利用者意向

1.住民アンケート

(1)調査概要

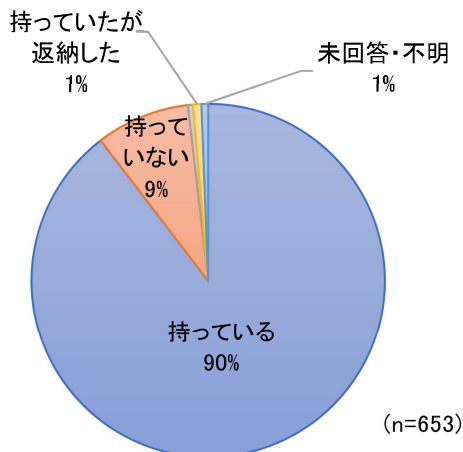
目的	地域住民の普段の移動状況や課題、公共交通に対するニーズを把握する。
調査方法	配布:別途実施された総合計画アンケートと同封し、郵送配布 回収:郵送回収、その他WEB回答フォームでの回答も可能とした 期間:7月19日~8月11日の約20日間
配布数	2000票
回収数	653s(うちWEB回答139s)回収率:32.6%

(2)調査結果概要

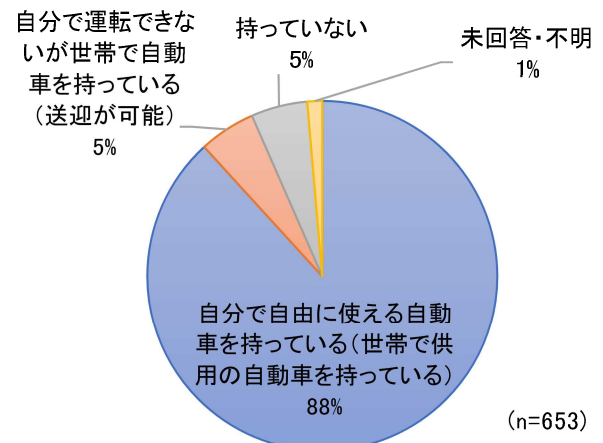
①属性

【自動車運転免許・自家用車の所有状況】

・約9割の人が自動車運転免許、自由に使える自家用車を持っており、ほとんどの人が自家用車で移動が可能。



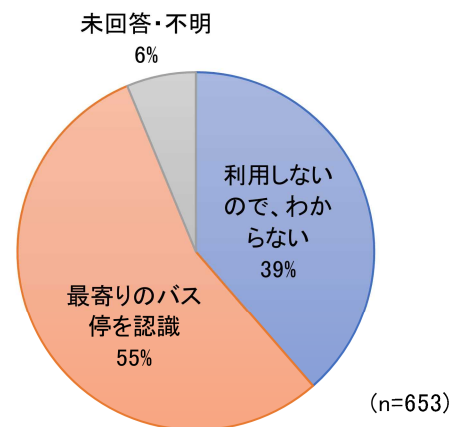
▲ 自家用車運転免許の保有状況



▲ 自家用車の所有状況

【最寄りのバス停】

・最寄りのバス停を認識している人は約半数程度。



▲ 最寄りのバス停

② 普段の外出について

【外出率】

- ・平日では約8割の人が、休日では約6割の人が外出している。
- ・目的別に見ると、平日では通勤・通学目的の外出が高く、休日では日常の買い物目的の外出が高い。通院目的の外出は他に比べて低い。

※外出率は1日あたりに外出している人の割合のこと。(1日あたりの外出日数/回答者数)

		平日 (n=513)	休日 (n=513)
外出率		82%	62%
目的別	通勤・通学	77%	26%
	日常の買い物	35%	41%
	通院	4%	2%
	その他お出かけ	18%	33%

※未回答者を除いて集計

※nは外出率のサンプルサイズ

▲ 外出率

- ・年代別に見ると、高齢になるほど外出率は下がっている。日常の買い物は、平日では高齢になるほど外出率が上がっており、休日では中年層が高くなっている。

平日		10代 (n=30)	20代 (n=56)	30代 (n=55)	40代 (n=93)	50代 (n=97)	60代 (n=107)	70代以上 (n=73)	未回答・不明 (n=2)
外出率		100%	84%	89%	90%	83%	78%	59%	100%
目的別	通勤・通学	100%	86%	81%	89%	84%	61%	38%	90%
	日常の買い物	8%	21%	33%	33%	36%	41%	47%	40%
	通院	1%	2%	2%	2%	2%	5%	12%	0%
	その他お出かけ	9%	11%	14%	12%	17%	24%	30%	40%

休日		10代 (n=30)	20代 (n=56)	30代 (n=55)	40代 (n=93)	50代 (n=97)	60代 (n=107)	70代以上 (n=73)	未回答・不明 (n=2)
外出率		58%	69%	65%	69%	64%	58%	45%	100%
目的別	通勤・通学	38%	28%	29%	32%	25%	21%	17%	0%
	日常の買い物	20%	37%	42%	48%	48%	42%	30%	75%
	通院	0%	0%	1%	4%	3%	0%	3%	0%
	その他お出かけ	25%	46%	34%	46%	35%	26%	21%	100%

▲ 外出率（年代別）

【主な交通手段】

- ・交通手段は自家用車での移動がほとんどを占める。割合は少ないが、通勤・通学で鉄道が利用されており、通院ではバスが利用されている。

		自家用車 (自分で運転)	自家用車 (自分以外が運転)	鉄道	バス	バイク・原付	タクシー	自転車	徒歩のみ	通学バス	施設送迎バス	その他
目的別	通勤・通学	79%	7%	16%	2%	1%	0%	3%	3%	0%	0%	0%
	日常の買い物	87%	15%	4%	2%	1%	0%	2%	1%	0%	0%	0%
	通院	82%	11%	10%	6%	0%	4%	1%	3%	0%	1%	1%
	その他お出かけ	85%	16%	8%	2%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

▲ 主な交通手段

【外出先】

・外出先としては、通勤・通学や通院は町内・町外ともあり、日常の買い物は町内が主となっている。町外の行き先としては、姫路市や福崎町が主となっている。

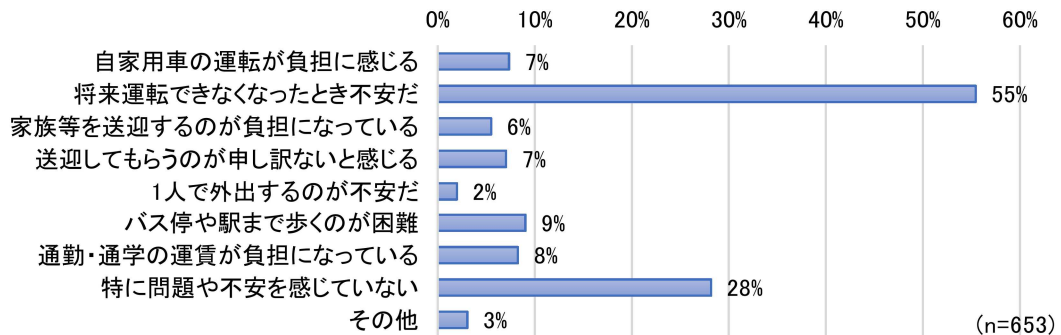
		町内	町外	主な町外の行き先
目的別	通勤・通学	44%	56%	姫路市、福崎町
	日常の買い物	75%	25%	福崎町
	通院	56%	44%	福崎町、姫路市
	その他お出かけ	30%	70%	姫路市、福崎町

※各目的で外出する人を対象に集計

▲ 外出先

【移動に関する不安や問題点】

・将来運転できなくなったときの移動について不安を感じている人が半数を超える。一方、不安や問題を感じていない人が約3割いる。

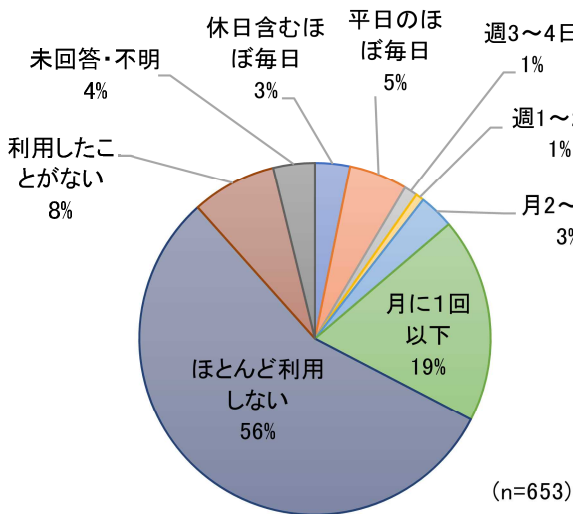


▲ 移動に関する不安や問題点

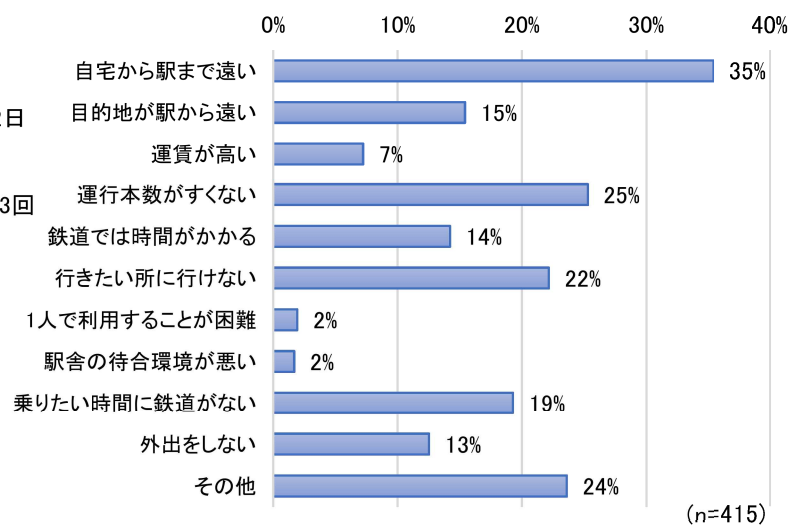
③公共交通の利用・意向

【鉄道】

・鉄道の利用頻度としては、利用しない人で6割を超える。週1~2日以上で約1割。
 ・利用しない理由については、自宅から駅までが遠い、運行本数が少ない、行きたい所に行けないという意見が多い。その他は自家用車を利用するという回答が多い。



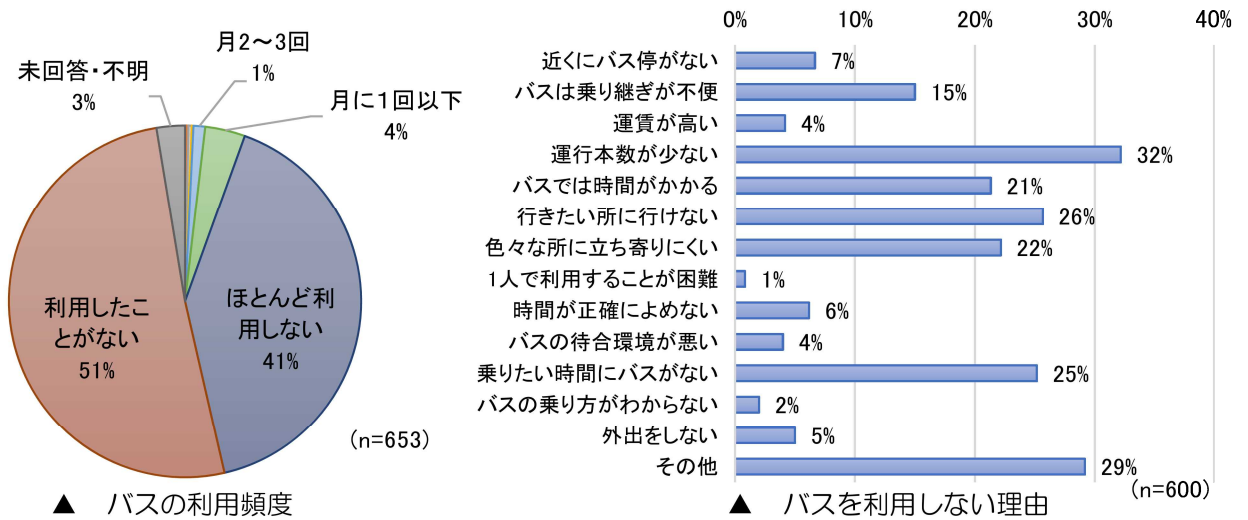
▲ 鉄道の利用頻度



▲ 鉄道を利用しない理由

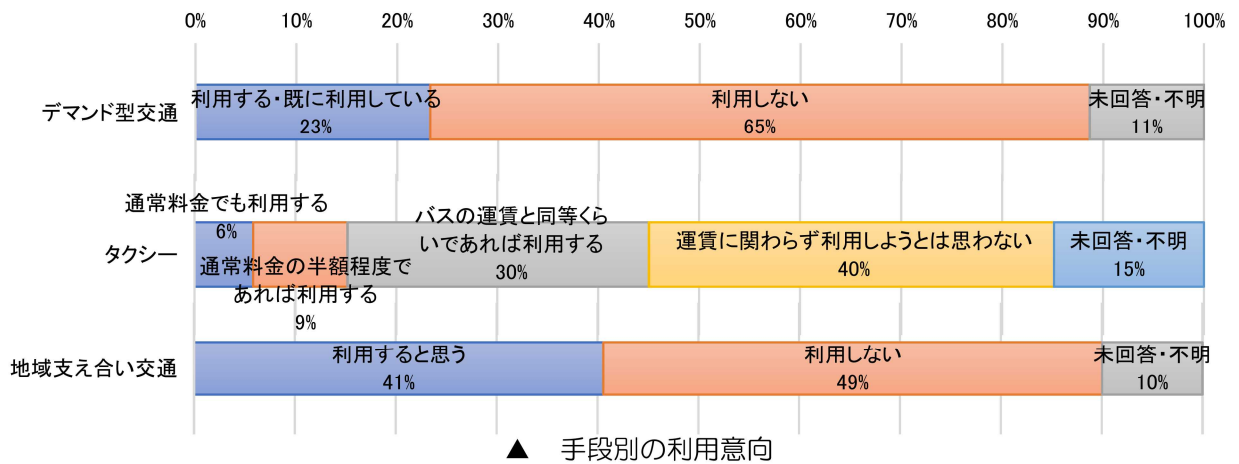
【バス】

- ・バスの利用頻度としては、利用しない人で9割を超える。日常的に利用している人は非常に少ない。
- ・利用しない理由については、運行本数が少ないという意見が最も多く約3割。その他は自家用車を利用するという回答が多い。



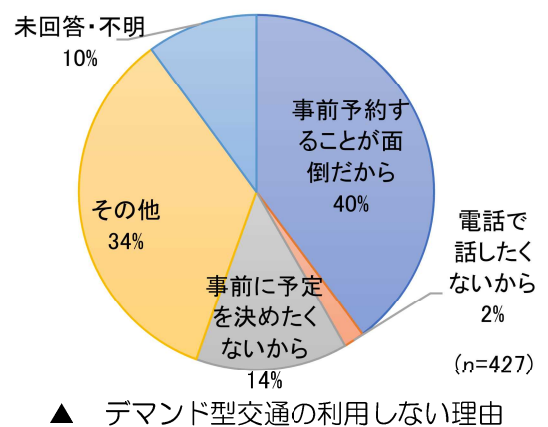
【手段別の利用意向】

- ・普段利用しているのバスの代替手段として、デマンド型では利用するが約2割、タクシーはバスと同等の運賃で利用するが約45%、地域支え合い交通では利用するが約4割あり、デマンド型の利用意向は低い。



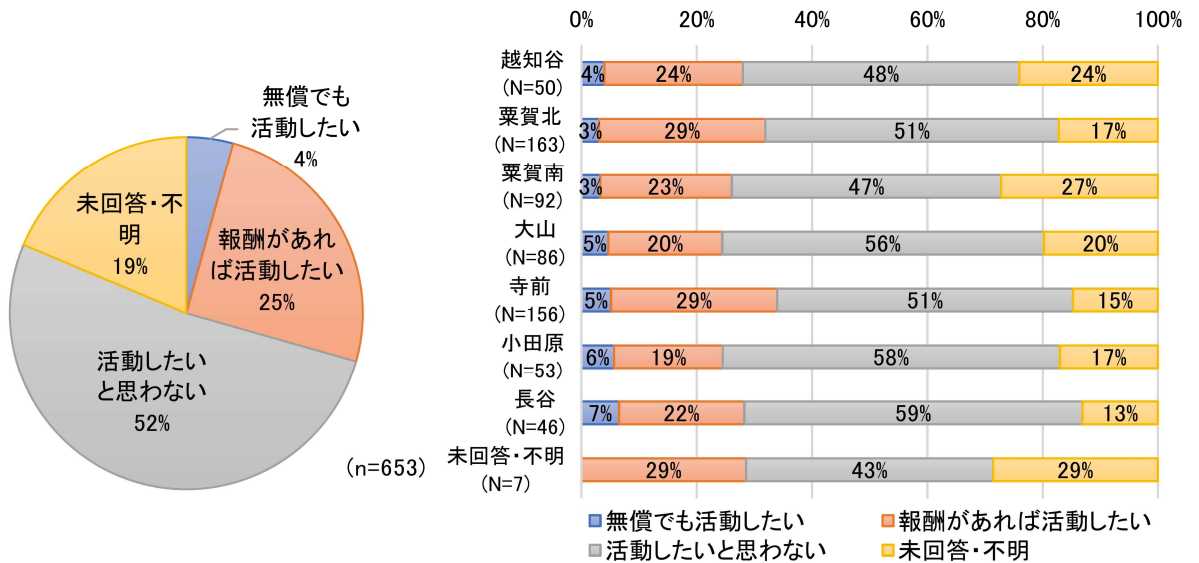
【デマンド型交通の利用しない理由】

- ・利用しない理由としては、事前予約が面倒という回答が多い。その他の意見としては、自家用車を利用する、バスに乗る必要がないという意見が多い。



【地域支え合い交通の運転手としての意向】

・運転手としての意向がある人が約3割。地域別に見ると、寺前地域や粟賀北地域で若干高くなっている。

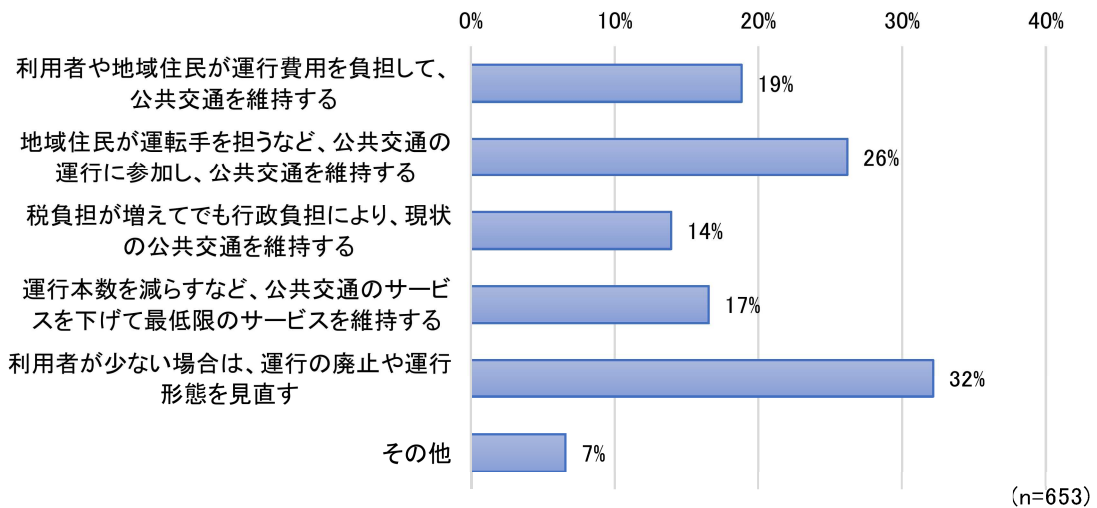


▲ 地域支え合い交通の運転手としての意向

▲ 地域支え合い交通の運転手としての意向 (地域別)

【公共交通の維持について】

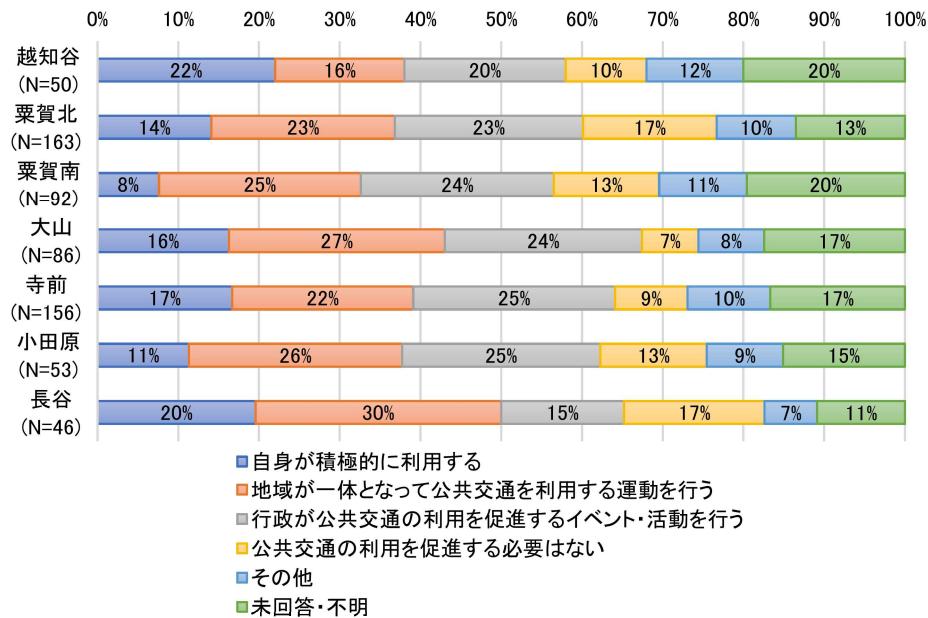
・利用者少ない場合は廃止や形態を見直すという意見が最も多く約3割。次いで、地域住民が運行に参加して維持するが多い。



▲ 公共交通の維持について

【利用者が増える方法】

- ・自身が利用する、地域が一体となって運動するという回答が長谷地域や大山地域が多い。一方利用促進する必要がないという回答もあり粟賀北地域や長谷地域で若干多くなっている。



▲ 利用者が増える方法

(3) まとめ

○普段の外出について

- ・ほとんどの人が自分で自由に使える自家用車を持っており、移動手段は自家用車となっている。公共交通はほとんど利用されておらず、最寄りのバス停も半数程度しか認識されていない。
- ・公共交通の中では鉄道が通勤・通勤目的で利用されており、自家用車（自分で運転・送迎）と併用で利用されているケースもある。通勤・通学は平日で外出率が高いこともあり、通勤・通学手段の一部を担っていると言える。一方、バスは通院目的での利用が他の目的より多い。通院目的の外出率は低いため、利用頻度も低くなる。ただし、通院では高齢者の外出率が高くなっており、高齢者の通院の足として利用されていることがわかる。
- ・自家用車で移動する人が多いため、将来的に運転できなくなったときの移動について、不安を感じている人が多い。免許返納時のサポートや免許返納に向けた準備を支援していく必要がある。

○公共交通の意向について

- ・定時定路線バスの代替手段としては、タクシー（運賃による）、地域支え合い交通の利用意向が高い。地域支え合い交通の運転手としても活動意向が高い地域があり、代替手段の検討の際は有効な手段と考えられる。
- ・公共交通の維持について、利用者が少なければ運行廃止や見直しを行うという意見が最も多く、公共交通の必要性について住民の意識醸成が必要であると考えられる。一方、地域住民が運行に参加して維持するという意見が次に多く、また利用促進方法についても、自身が積極的に利用するや地域が一体となって運動するという意見が多い地域もあり、公共交通の維持に前向きな人も多い。

2.通学に関するアンケート

(1) 調査概要

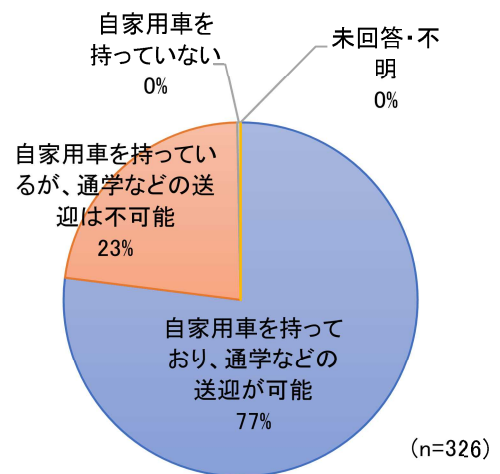
目的	通学に関する現状や意向を把握する。
調査方法	配布:学校を通して児童・生徒に配布(家族、保護者が回答) 回収:郵送回収、その他WEB回答フォームでの回答も可能とした 期間:7月14日~8月11日の約25日間
配布数	750票
回収数	326s(うちWEB回答163s)回収率:43.4%

(2) 調査結果概要

①属性

【自家用車の所有状況】

- ・約8割が送迎可能であるが、約2割が送迎が困難な状況である。

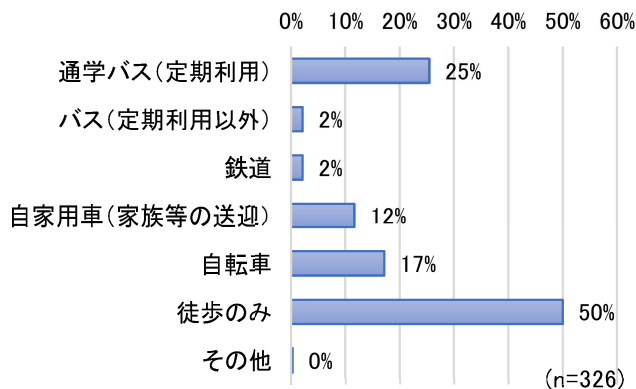


▲ 自家用車の所有状況

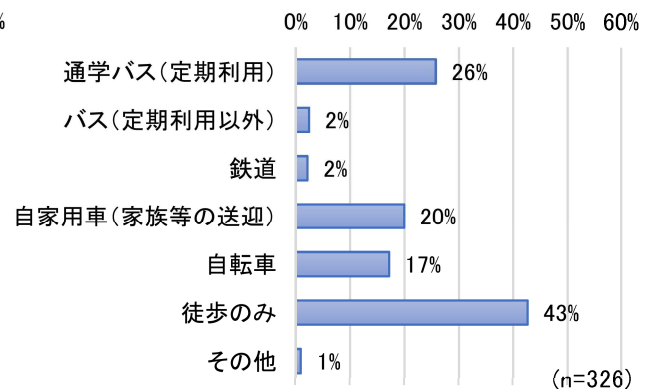
②通学の移動について

【交通手段】

- ・徒歩での通学が約半数、次いで通学バスが多い。
- ・下校の際に自家用車による送迎の割合が増加している。



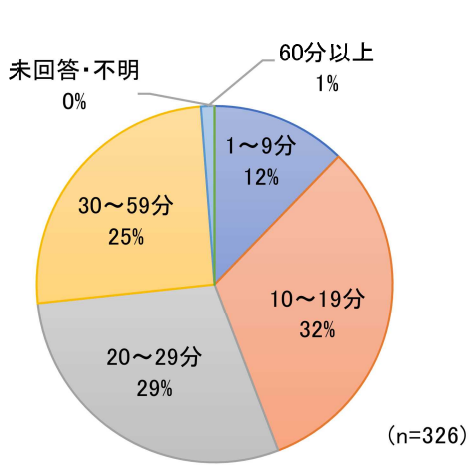
▲ 交通手段 (登校)



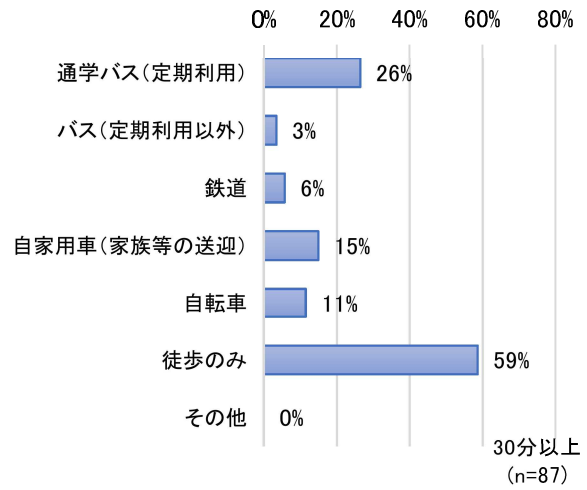
▲ 交通手段 (下校)

【通学にかかる時間】

- ・20分以上が半数以上、30分以上が25%いる。
- ・通学時間が30分以上の人の交通手段では、徒歩の割合が増え約6割。



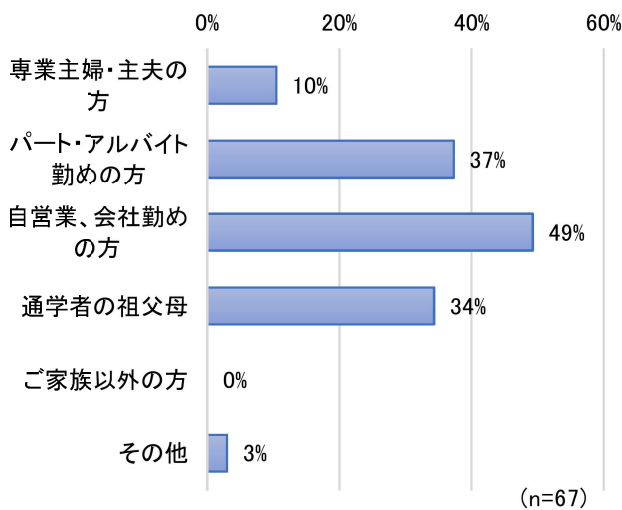
▲ 通学にかかる時間



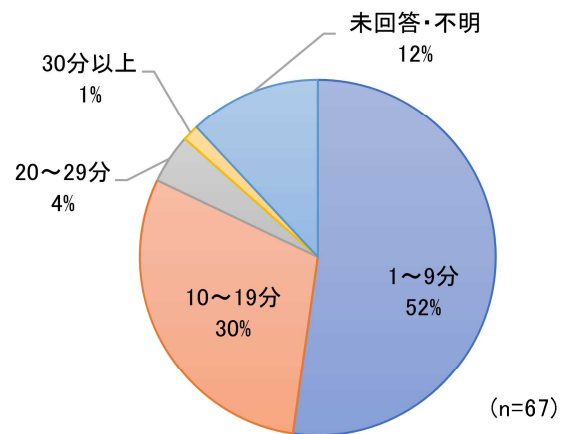
▲ 通学時間30分以上の交通手段(登校)

【送迎について】

- ・自家用車で送迎している人の送迎者は自営業・会社勤めの方、パート・アルバイトの方が多く、世帯の中で勤務者が送迎を行っている。
- ・送迎にかかる時間は19分以下でほとんどを占める。



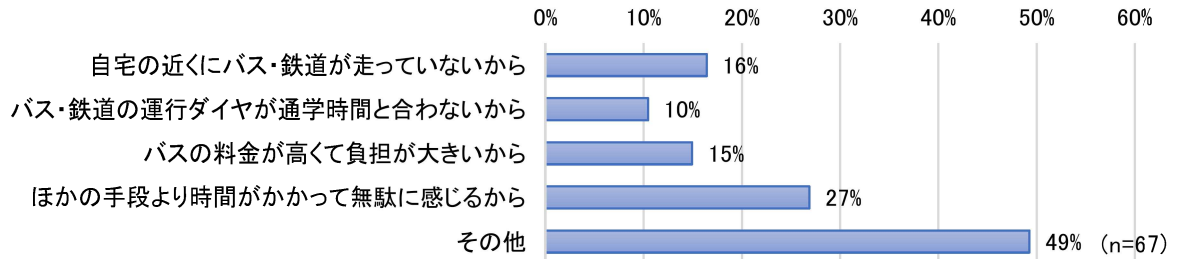
▲ 送迎する人



▲ 送迎にかかる時間

【鉄道・バスを利用しない理由】

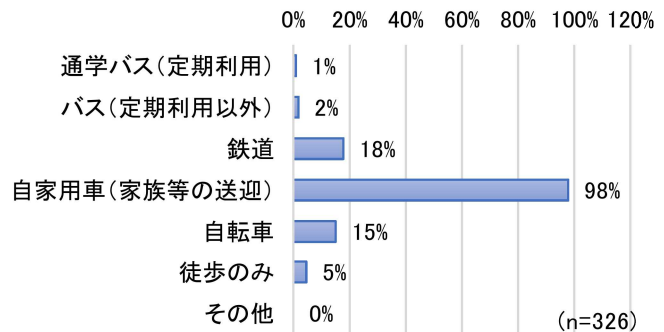
- ・送迎者の鉄道・バスを利用しない理由としては、その他の意見で、バス通学の範囲ではないから、学校で決められているからといった意見が多い。
- ・ほかの手段より時間がかかってしまうという意見も多く約3割。



▲ 鉄道・バスを利用しない理由

【休日の交通手段】

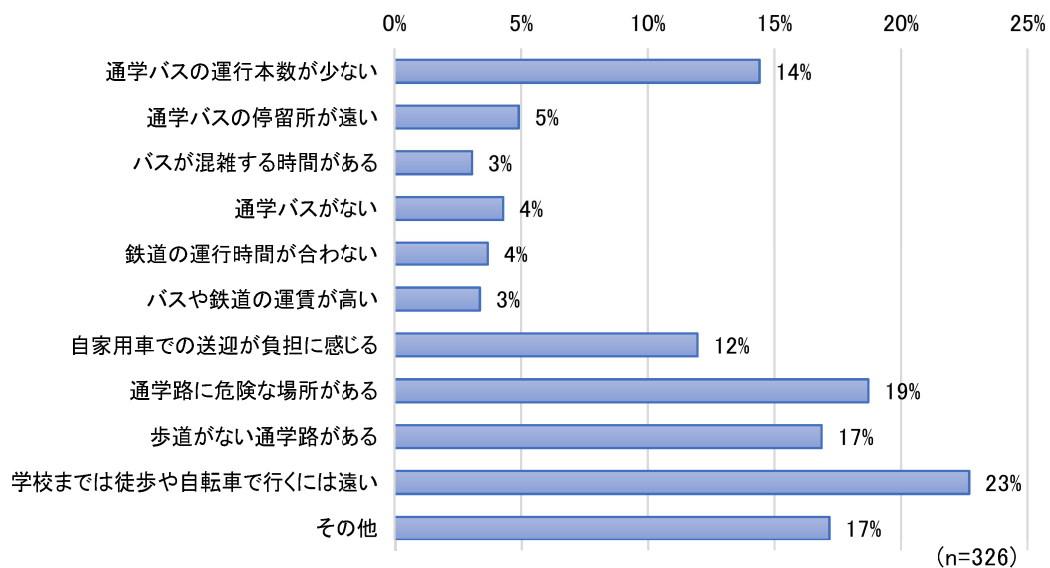
- ・休日の交通手段は自家用車による送迎が圧倒的に多い。



▲ 休日の交通手段

【通学で困っていること】

- ・徒歩や自転車で行くには遠いのが回答が最も多く約2割。次いで通学路に危険な場所があるや歩道がないなどの通学路の意見が多くなっている。
- ・その他の意見として、バス通学の許可されていない、時期によってバスがないときがある、自転車で雨の日の通学が心配、荷物が多く負担になっている、不審者や動物が心配、デマンド運行でお昼の帰りが心配等が挙げられている。



▲ 通学で困っていること

【自由記述】

- ・雨天・路面凍結時・猛暑日などバス通学を認めてもらいたい
 - ・バスか自転車を併用できるようにしてほしい
 - ・バス通学の基準に不満がある
 - ・電車とバスの時間があっていないので、利用できない
 - ・小学生が長距離を歩いて通学することが心配
 - ・高校になったときの通学に不安がある
 - ・通学の鉄道利用の助成があれば助かる
- 等の意見が挙げられている。

(3)まとめ

- ・通学の交通手段としては徒歩が約半数、通学バスが25%。自家用車の送迎が約1割～2割となっている。通学に30分以上かかる人も25%おり、そのうちの約6割が徒歩での通学である。遠方からも徒歩で通学する生徒が多い。
- ・自家用車の送迎は世帯の中の勤務者が行っており、バスや鉄道で通学をしない理由は、学校で決められているバス通学の基準によるものが多かった。
- ・休日での交通手段はほとんどが自家用車による送迎によるものである。
- ・通学で困っていることは、徒歩や自転車で行くには遠いが、バス通学の許可されていないこと、通学路に危険な場所や動物が心配であることなどが挙げられている。距離や天候、季節によってバス通学を認める等のバス通学の基準や将来的に高校生になった際の通学への支援のニーズがある。

3. デマンド交通登録者及び利用者アンケート

(1) 調査概要

目的	川上線で実施しているデマンド交通の利用実態把握のため、登録者（登録だけで利用はしていない）及び利用者にアンケートをおこなった。
調査方法	配布：デマンド交通登録者に郵送 回収：郵送回収 期間：8月31日～9月15日の約16日間
配布数	登録者89票 利用者28票
回収数	登録者63票回収率：70.8% 利用者25票回収率：89.3%

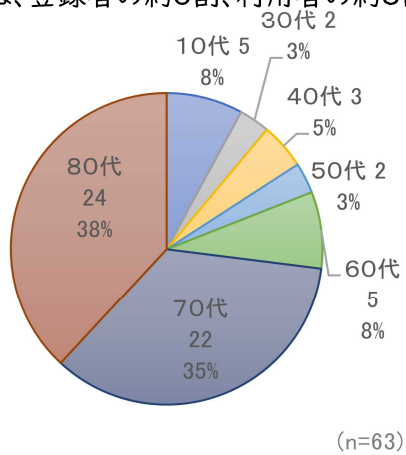
(2) 調査結果概要

① 属性

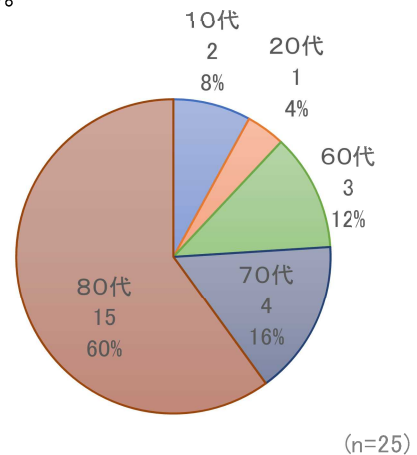
【年代・性別】

・年代別をみると、登録者の約7割の人が70歳以上、利用者の約2割が70代、約6割が80代となっている。

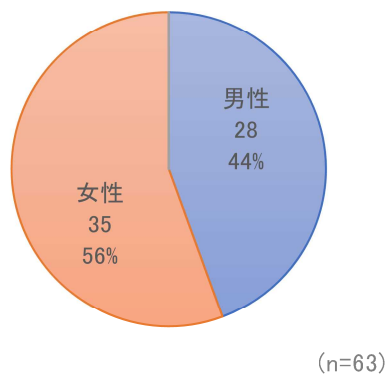
・性別は、登録者の約6割、利用者の約8割が女性である。



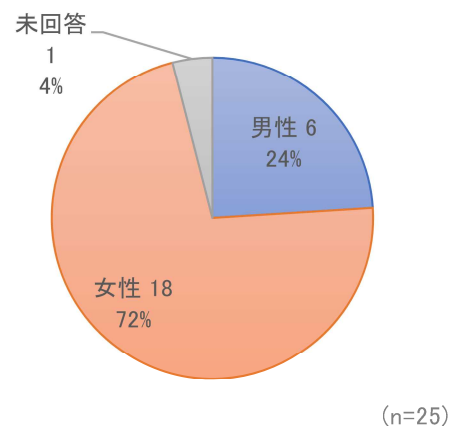
▲ 登録者 年代



▲ 利用者 年代



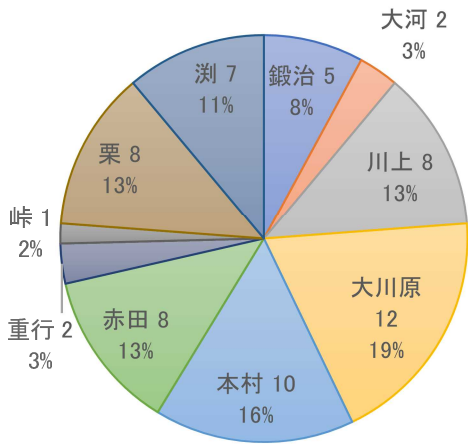
▲ 登録者 性別



▲ 利用者 性別

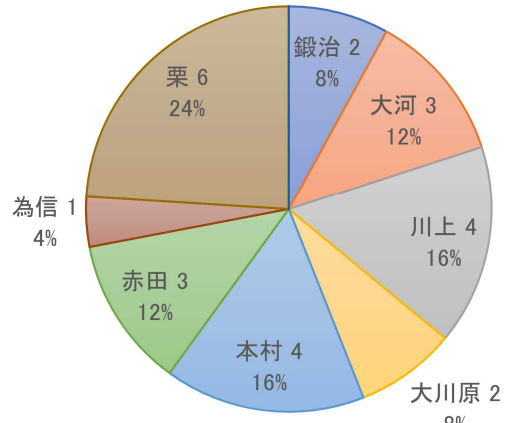
【お住まいの集落】

・利用者の居住集落は、栗、川上、本村、大河、鍛冶、大河原、赤田、為信となっている。



(n=63)

▲ 登録者 お住まいの集落



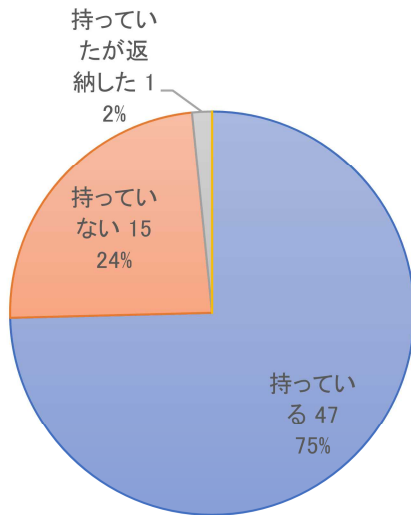
(n=25)

▲ 利用者 お住まいの集落

②自動車免許証の有無

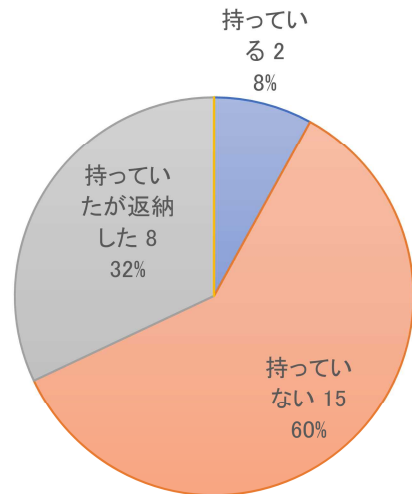
【自動車運転免許証の有無】

・登録者の約8割が自動車運転免許証を持っており、利用者では約9割が自動車運転免許証を持っていない。



(n=63)

▲ 登録者 自動車運転免許の有無



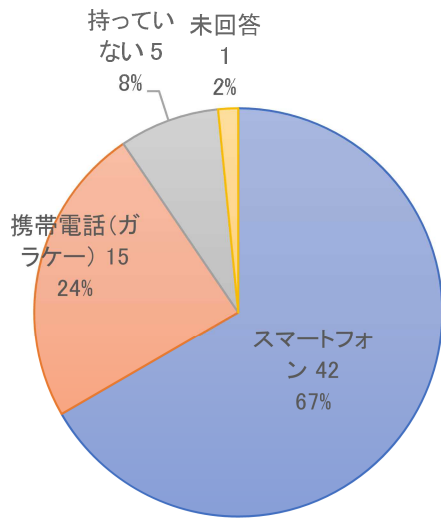
(n=25)

▲ 利用者 自動車運転免許の有無

③携帯電話の有無

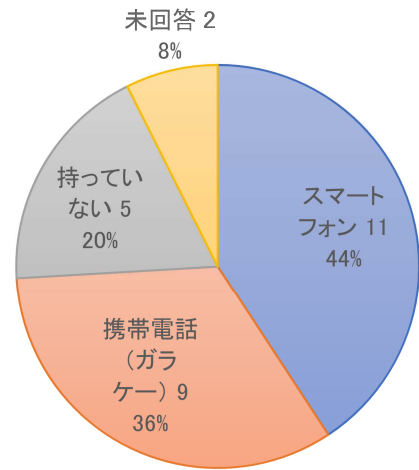
【携帯電話の有無】

・携帯電話の有無では、スマートフォン所有は登録者が約7割、利用者では約5割となっている。



(n=63)

▲ 登録者 携帯電話の有無



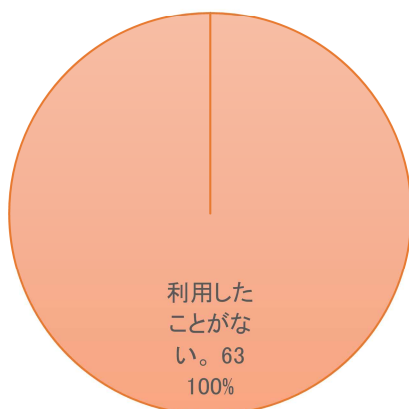
(n=25)

▲ 利用者 携帯電話の有無

④デマンド交通の利用状況

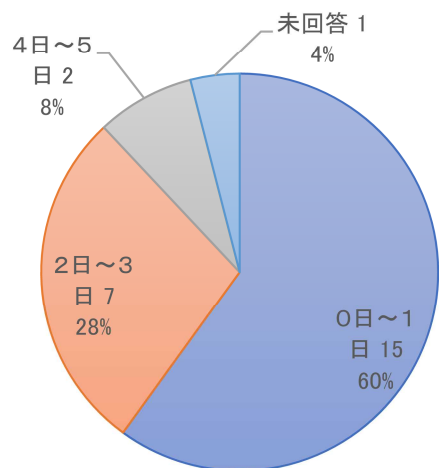
【利用状況】

- ・利用者の回答からマンド交通の利用をみると、「1ヶ月に0~1日」が15人、「2~3日」が6人、「4~5日」は2人となっている。
- ・登録者の回答からデマンド交通を利用しない理由をみると、「他の交通手段を利用」が約4割、「時間帯が合わない」が約3割、「行きたいところまで運行していない」が約2割となっている。
- ・登録者の回答から、主に利用している交通手段では「自家用車」が約8割となっている。



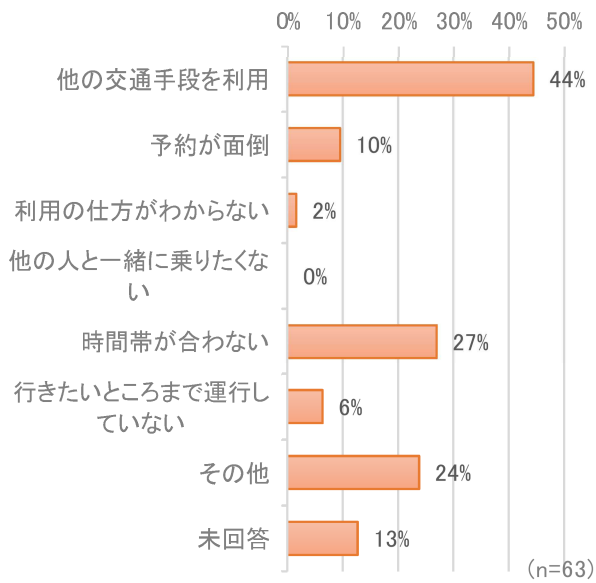
(n=63)

▲ 登録者 利用の有無

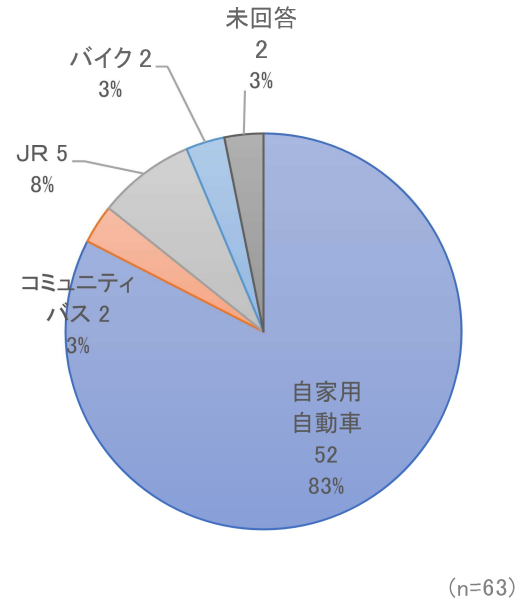


(n=25)

▲ 利用者 利用頻度



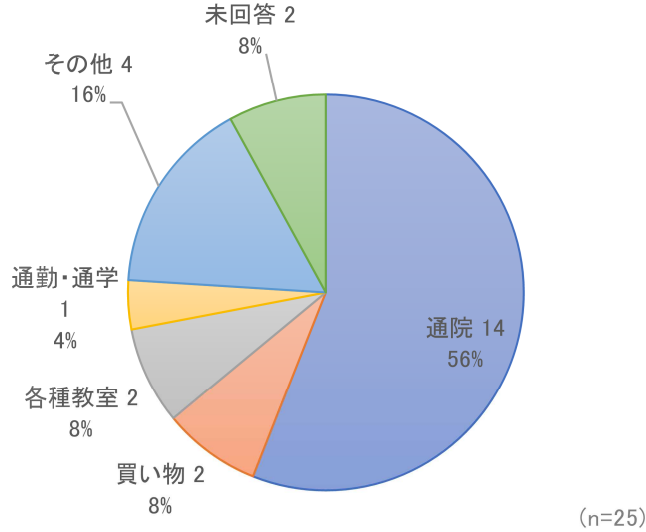
▲ 登録者 利用しない理由



▲ 登録者 主に利用している交通手段

【利用目的】

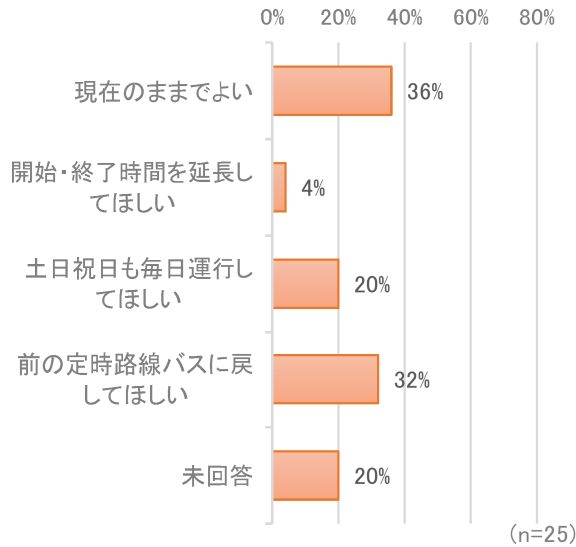
・利用者の回答から利用目的をみると、「通院」が14人、「その他」が4人となっている。



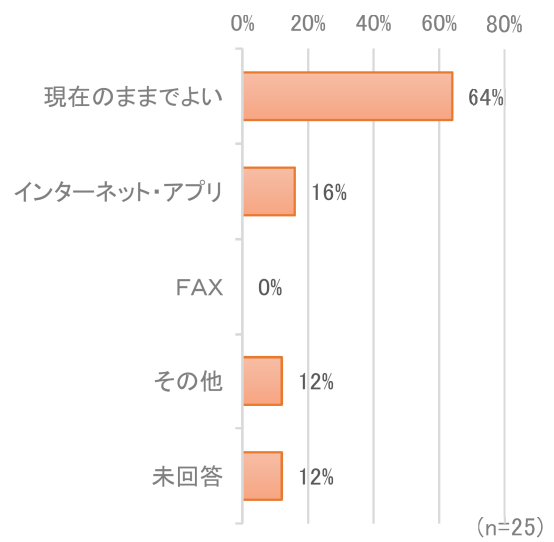
▲ 利用者 利用目的

【運行頻度と時間・予約方法】

- ・運行時間帯についての利用者の回答は、「現在のままでよい」が9人、「前の定期路線バスに戻してほしい」が8人となっている。「土日祝日も運行してほしい」も5人おられる。
- ・予約方法については、「現状のままでよい」が15人、「インターネット・アプリ」が4人となっている。



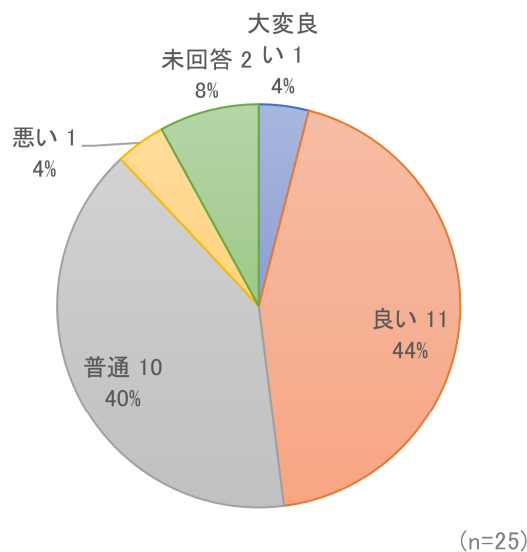
▲ 利用者 運行頻度と時間について



▲ 利用者 運行の予約方法について

【デマンド交通の満足度】

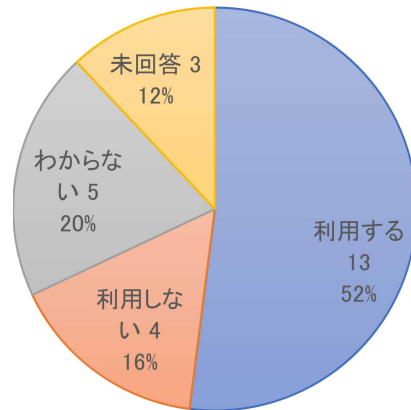
- ・デマンド交通の満足度は、「大変良い」、「良い」は半数の12人、「普通」は9人となっている。



▲ デマンド交通の満足度

【寺前駅以北のデマンド交通の利用意向】

- ・現在、公立神崎総合病院間は乗り換えなしで運行しているが、寺前駅、役場本庁舎等でコミュニティバスとの乗り換えが発生しても利用していただけるかの間いには、「利用する」が半数の12人、「わからない」が5人、「利用しない」が4人となっている。



(n=25)

▲ 利用者 寺前駅以北のデマンド交通の利用意向

(3)まとめ

○登録者

- ・登録者の多くは、今のところ自家用車で移動ができるため利用していないことがわかるが、時間帯が合わないために利用していない人もある。
- ・今後、自家用車の運転ができなくなった後に必要になると回答している方も多く、気軽に利用できる方法や運行時間帯を増やすなどの意見もあった。

○利用者

- ・運転免許証を持たない人を中心に利用しているが、利用頻度は月に1回程度と低いものとなっている。
- ・利用目的は通院が主となっている。
- ・電話による予約受付が、耳が遠い、予約時間などが不便などの意見がある。
- ・病院直行便を残してもらいたい、電車の時間と合わせてもらいたい、といった意見もあり、運行時間等の課題がある。

4.地区勉強会

(1)開催概要

目的	住民の方に公共交通の実情や交通手段などの基本的なことを理解し、自分達が住む地域にあった交通手段や運行する際の課題や住民主体型交通のあり方を検討する。
開催日	令和5年12月2日(土) 14時~16時
場所	作畑秀峰館(神河町作畑519)
参加者	9名
概要	<p>【第1部】講演会 「公共交通の現状と持続するための課題」 講師:井上 学氏(龍谷大学教授・神河町地域公共交通活性化協議会 委員)</p> <p>【第2部】勉強会 「越知谷地区のこれからの移動手段を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越知谷地区の暮らしを守るために ・地域の交通を維持するための課題 ・越知谷地区にあった交通手段を考えよう

(2)勉強会結果概要

① 講演会の概要

○要点まとめ

- ・地域でできることを考えることが大切。
- ・自分ごととして考える公共交通⇒地域の特徴をふまえる。
- ・地域の移動に関するほどよい最適化を考える。⇒折り合いをつける。
- ・住民、行政、事業者が知恵を出し合って、持続可能な公共交通のあり方を考える。
- ・自家用有償旅客運送⇒地域住民の支え合いがベース。
- ・地域住民の支え合いによる地域交通の実現には。⇒安全が最も大事、無理をしない。
- ・一番大事にしたいことを考える。⇒困っている方を見つける。
- ・小さなサービスからはじめる。
- ・注意すること⇒ITは魔法ではない、次の担い手を確保する。
- ・運行開始時点がスタート。⇒今の時点の移動サービスの選択肢の一つと捉えて5年後10年後には再検討をしていく。

②勉強会の結果(主な意見)

○講演会の感想

- ・小さくはじめるのは、その通りだと思った。
- ・安全が一番だと思った。
- ・公共交通について考えていなかったが、これからは考えなければと思った。

○越知谷地区の暮らしを守るために

- ・高齢でも車に乗って運転しているのは心配。
- ・運転免許を返納すると、移動手段がなくなる。
- ・車が乗れなくなると認知症が進むのではと不安もある。
- ・越知谷地区は高齢、一人暮らしが多い。町内に住む家族などが病院等に連れて行っている。
- ・今は、近所の高齢の方を自分の車で乗せていってあげているが、事故の時の心配。
- ・10年後のことを考えなければならないが、地区の現状は少子高齢化が進んでいる。
- ・10年後、次は誰が担ってくれるのかが不安。
- ・今現在は、社会福祉協議会で買い物支援や病院送迎を担っている。
- ・手押し車を利用されている方などの高齢者のサポートが難しい。
- ・サポートは家族がしているが、近所の人助けすることも必要である。

○地域の交通を維持するための課題

- ・私たちの生活の中で、公共交通が身近なものになればと思う。
- ・バスの利用者数が少ない。バスの体験乗車を実施したことがある。乗ってみると結構便利だと分かった。
- ・まだ運転する人が多いので、バスに乗っている人は少ない。

○デマンド交通について思うこと

- ・バスは乗っていないがデマンド交通は利用されるのではないかと思う。
- ・今は車が乗れるが、今後乗れなくなったときは心配。デマンド交通が利用できるのか、身近な利用からはじめていければと思う。
- ・デマンド交通が導入されて、コミュニティバスがなくなると、子どもの通学に困るなど感じている。
- ・子どもたちも帰宅時間が様々なので、デマンド交通だけでは困る。
- ・子どもたちの通学バスがなければ、Uターン移住もなくなるのではないか。
- ・デマンド交通は小型バスで乗車人数に制限がある。乗れない場合はどうするのか。
⇒どのように運行するかは検討中である。乗車人員10名を超えて予約がある場合は往復を考えているが、川上線の実績では乗車人員を超えての利用は今のところない。
⇒越知谷地区は幼稚園児もいるので、デマンド交通の移行には課題もある。

○越知谷地区に合った交通手段

- ・身近で手頃な移動手段がよい。
- ・越知谷地区に合った公共交通があったらいいと思う。
- ・お年寄り「今、乗っていきたい」で、予約や登録が難しいのではないか。
- ・各区に自由に使用できる車があればいいなと思っていたが、現実的には難しいか。
- ・越知谷地区で住民のアンケートを実施したが、デマンド交通に期待している声も多い。
- ・地区住民のアンケートでは車の不安が多く、買い物や通院を支援してほしいという意見が一番多かった。
- ・越知谷地区で自家用有償運送をはじめる検討をしている。越知谷地区のデマンド交通と同時に運営できればと思う。利用者にとって分かりやすく、使いやすいように。
- ・デマンド交通で行政ではできないことは地区でできればと思う。小さなことから始めていきたい。

- ・越知谷地区内を自家用有償運送で担って、コミュニティバスの停留所まで送ることは可能か。
⇒小さい範囲で行うことは大切。利用者にとっては乗り換えが大変だろうけれど、バス停留所までの送迎は可能。また近所内の運転なので安全でもある。

○講師からのコメント

- ・子どもたちの通学が一番に守らなければならない。
- ・他の自治体で、地区に車の貸し出し事例はある。
- ・デマンド交通は、決まっている用事に対応するもので、急な用事には対応できないもの。
- ・それぞれの人で、交通の時間を見て行動したらいい。折り合いをつけて上手くやっていけばいい。
- ・自家用車の運転は、体力を使わない。ただし判断力は必要。
⇒公共交通を使って移動することは、体力が必要で、フレイル予防となることを知ってもらいたい。
- ・デマンド交通の予約などは大丈夫か不安の声もあるが、はじめてもらうことが大切。使って意外とよかったとなる。
- ・デマンド交通と自家用有償運送を上手く合わせて、サポートできればいい。
⇒法律的なことは確認が必要。
- ・今、困っている方を地域の方で見つける。困っているレベルを見極めることが必要。
- ・デマンド交通も課題や問題があるが、それを理解して伝えることが地域の役割。

②勉強会に参加して

- ・デマンドというの知らなかったので、もっと具体的なことを勉強して、何が必要なのか勉強しないといけないと思った。
- ・地域にバス路線が残すために、地域で協力しないといけないと感じた。
- ・自治協議会で自家用有償運送はできるか。
⇒越知谷地区はコミュニティバスが運行しており、公共交通空白地有償運送ではない。完全無料はすぐにも始められるが79条の登録は行った方がよい。



▲ 実施風景